



## 食育授業実況中継・「自分の推定エネルギー量を知ろう」

(磯松中学校・梅林紗也香栄養教諭)

今回お邪魔したのは、磯松中学校 2 年 5 組、生徒数は 3 6 名。授業をする栄養教諭の梅林紗也香先生が初めに示したのは残食率(注 1)。市内中学校平均 4.5% に対し磯松中学校は 6.6% となっている中で、2 年 5 組は残食率 3.1% であることを説明し、「一番頑張ってる食べてくれている 2 年 5 組の皆さんに、自分にあった食事の量を考えてもらいます。」と説明。

次に、標準体重を紹介した後、1 食で摂取するエネルギーを自分の生活に合わせて数式計算(注 2)しました。望ましい数値をめざして食事の量を増減する際には、電子黒板で主食・副食・牛乳等の栄養素グラフを見ながら、栄養素に影響する主菜や副菜の量を変えるのではなく、白米の量で調節するとよいことなどを説明しました(ただし、必要なエネルギーが 1,000kcal 以上の人、おかずの量も増やすこと)。生徒たちは、「ご飯を減らしたら、カロリーは減るが栄養分はあまり変わらないこと」や「牛乳の栄養価が思ったより高いこと」などに驚いていました。また、200g、240g、300g がどのくらいの量なのかを知るために、炊いた白米を生徒が実際に茶碗によそいました。思ったより白米の量が多いことを実感した生徒たち。食べきれないからと普段必要以上に白米を減らしていたことに気づいたようです。

授業を受けた一人の男子生徒は「いつも時間が無いので、ご飯のお代わりを迷っていたけど、これからは自分に必要な量になるように配膳する。」と話していました。生徒たちは、自分に必要なご飯量を計算して慎重によそい、この日もおいしく給食をいただき、残食量はなんと 0g でした。

授業をした梅林栄養教諭は、「授業したクラスは一番残食が少ないことから、給食への関心も高いと思っていたが、ICT も使った資料等で、自分に合った量の食事をする事の大切さをよく理解してくれたと思う。残食率は少ないのが望ましいことは事実。成長期に必要な栄養価を計算してつくられた献立を、自分に合うように上手に食べていく力につながってほしい。」と話していました。

注 1★残食率…給食施設における残食調査は、下膳された残食量による実測が一般的。残食率(%) = 残食量 / 提供量 × 100 で算出している。

注 2★1 日に必要なカロリーを求める計算式 -黄色いセルに自分の数値を入力-

| 性別 | 身長<br>(cm) | 年齢<br>(歳) | 基礎代謝量<br>(kcal/日) | 身体活動レベル | 17%+ 普通量<br>(kcal) | あなたの 1 日に<br>必要なエネルギー量<br>(kcal) | あなたが 1 食分で<br>必要なエネルギー量<br>(kcal) |
|----|------------|-----------|-------------------|---------|--------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| 2  | 130.0      | 14        | 1,005             | 1.90    | 25                 | 1,935                            | 638                               |

男子は「1」  
女子は「2」を入力運動部の人には「1.9」  
その他の人は「1.7」を入力★あなたが給食で食べるごはんの量は **少なめ** サイズです。

750kcal未満

少なめ

180~200g



750~900kcal

普通

200~240g



900kcal以上

多め

240~300g



## 中学校の給食は時間との競争？

磯松中学校には、エレベーター(給食用も)がないため、当番の生徒が配膳室まで取りに行きます。全クラスが一斉に運ぶため、配膳の時間は校内の階段を一方通行にして運べるように工夫しています。それでも授業を取材した 2 年 5 組が「いただきます」となったのが 4 時間目終了から 30 分経った 12 時 50 分でした。13 時 15 分までに給食配送車に返却するために、食事の仕方と時間を守りながら楽しんで食べる、そんな給食時間でした。

## 御園宇小学校増築校舎・完成間近

平成 2 9 年の龍王小学校の開校後も、東広島市中心部児童数は増加しており、2 年前の東西条小学校の校舎増築に続き御園宇小学校でも増築校舎が建築中です。昭和 5 6 年に開校して以来、4 5 周年を迎えた御園宇小学校の校舎増築は初めてのこと。

現校舎南側に増築される校舎は 3 階建てで渡り廊下も含む延べ床面積は約 4,000 m<sup>2</sup>、普通教室 1 6、特別支援教室 3 に加え 1 階に職員室も移ります。2、3 階には広いオープンスペースが配置され、多様な学習活動が可能です。

今年 4 月に赴任した石川真紀校長は、「工事の間、グラウンドが大変狭くなり、子どもたちは不自由な生活のなかで工夫して頑張ってきました。運動会も地域のご理解とご協力の中で広島大学グラウンドをお借りして行いました。6 年生も卒業までに新校舎を使って学習できることは本当に良かった。工事にあたって様々にご協力いただいた多くの皆様に心から感謝しています。」と語っています。

1 1 月中には増築校舎が完成、引越し作業を経て、1 2 月から新校舎を中心とした生活が始まります。

現校舎は引き続き部分的な改修工事が年度末まで行われ、来年度 4 月からは仮設教室もなくなる予定です。



現校舎(左)と増築校舎(右)間の中庭イメージ図

体育館との渡り廊下はそのまま

増築校舎完成イメージ図

児童玄関とならぶ校舎玄関

## 緑化推進運動功労者

## 内閣総理大臣表彰受賞

## 高美が丘中学校

生徒会主催で受賞報告会



4 月 25 日に、大手町のパレスホテル東京で行われた表彰式に出席した柵田生徒会長と中山校長

この表彰は、緑化推進運動の実施に顕著な功績のあった個人または団体に対し贈られるもので、令和 7 年は 13 の個人・団体が選出され、中学校では高美が丘中学校ただ 1 校の受賞でした。高美が丘中学校は平成 25 年度から「美しい学校づくり・地域づくり」に継続的に取り組んできました。学校内外の花壇や竹林の整備はもとより、落葉からのたい肥作りや伐採した竹を使った竹ぼうき作りなど、生徒が中心になって実践してきました。また、生徒が育てた花を地域の施設に寄贈するほか身近な花や木の写真をのせたポストカードを地域住民に贈る「フラワースマイルキャンペーン」にも継続的に取り組んでいること等が評価されたものです。

## 全校生徒に受賞の意義を語る柵田生徒会長

地域の方々の協力を得ながら活動を続けてきたことは素晴らしいこと。「地域の人々を笑顔にする」をめあてに平成 2 5 年度から活動がはじまり、これまで継続してきたことが認められたのだと思う。先輩方が長く活動を続けてきたおかげで受賞できた。私たちが 3 年間頑張ってきたよかったし、この活動のすばらしさを感じている。また、社会貢献をする中で粘り強さを身に付けることができたと思う。

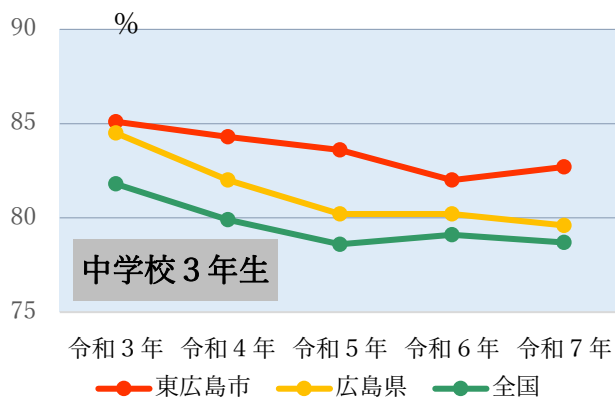
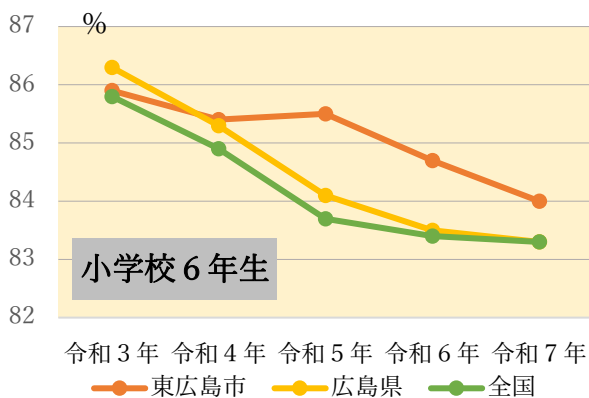


報告会では生徒の代表が、活動を支えてきた三代澤、米澤両教諭にインタビューも。報告会の様子は、ビデオ収録され、地域の方に受賞報告とかねて発信されました。



## 「朝食を毎日食べる子どもたち」が、年々減っている！

全国学力・学習状況調査結果から



## 6年間「けんこうノート」健康教育の伝統（小谷小学校・大重千織栄養教諭）

小谷小学校は健康教育に昭和33年から取り組んで60年以上。その内容は食育だけでなく、朝のランニング、パワーアップタイム、目の休憩、いい歯の日など、多岐にわたります。

なかでも特徴的なのが、子どもたちが全員持っている「健康ノート」。1年生から6年生まで6年間で6色のけんこうノートを使って自分の健康への関心を大切に育てています。そのねらいを、教諭時代にも勤務した松下篤校長は次のように語ります。

「健康ノートは、昭和40年頃『体力づくりの体育手帳』から始まりました。当時の児童の体格が小さかったという理由で『食育』を中心に『健康教育』もそれまで以上に取組みを充実させていったと聞いています。そこには児童の『体格・体力・気力』を強くしたいというPTAや地域の願いが込められていました。今年度第1回の学校運営協議会の場合でも『朝食を食べさせるのは100%家の役割・保護者の責任』という確固たる意見が全ての委員の方から出ていました。このことは小谷地域だけのことでなく、高屋中学校区すべての小・中学校で共通理解したうえで『朝ごはん摂取100%』『給食残食0%』をめざす取組を実施しています。しっかり食べることが必ず健康につながる。『健康第一』でなければ『学力』の向上も『やさしい心』の育成も大きな成果に結びつきません。このことを保護者の皆さんがしっかり理解されているおかげで、各家庭で可能な限りの実践をしてくださっています。感謝しています。」

## 後進を育てる

栄養教諭の大重さんは、この道20年のベテラン。今年6月には、栄養教諭を目指す教育実習生の指導に取り組みました。その中の一つが4年生に行った授業「牛乳パワーを知ろう」でした。一週間の実習の中のハイライトでもある授業づくりと一緒に経験した教育実習生の源那奈さんは栄養教諭の仕事について、

「全学年授業に参加させていただきました。大重先生が給食の時間すべての教室をまわり、児童の様子を丁寧に見守っていらっしゃる姿から、児童に適した食育を行うためには、まず児童をよく見て理解することが重要だと学びました。もう一つ、指導案を検討する際に先生が楽しそうに様々なアイデアを次々と出しておられたことも印象的でした。」と手紙に感想を綴っています。

指導にあたった大重先生は、「栄養教諭制度が開始されて20年となりましたが、栄養教諭を目指す学生が、その道に進むことは、大変狭き門となっています。『食べる』ということは、生涯にわたる営みですので、栄養教諭実習での学びは、どこにあっても広く活かすことができるものと信じています。また、私自身も見方・考え方を広げることができるとともに、未来につなぐ人材育成に関わらせていただけることに感謝しています。」と話していました。



小谷小学校の子どもたちが全員もっているけんこうノートは、学年ごとに6色。伝統の毎朝のマラソンや早寝早起き朝ごはんチャレンジ習慣の記録から歯の治療まで内容も豊富です。



教育実習の授業「牛乳パワーを知ろう」。子どもと大人の骨の模型を示して説明する源さん

## 特集 栄養教諭と食育指導

学校（給食センター）には、給食に関する業務に携わる学校栄養職員がいますが、平成17年度から、学校給食の業務に加えて、児童生徒への食や栄養に関する指導を行う「栄養教諭」が配置されることになりました。

現在、東広島市では6人の栄養教諭が、4つの給食センターを勤務しながら6つの学校に勤務し、教職員と協働して、児童・生徒の食生活・栄養やアレルギーについての授業や、個別的な指導を行っています。その目的は、児童・生徒が「食事栄養を自己管理する能力」と「好ましい食習慣」を身につけることです。

今回は、東広島市内の小中学校の食育指導の最前線で働いている6人の栄養教諭さんをたずねて、日々の取り組みや思いを聞きました。



食育の校内掲示作成も大事な職務。小谷小校内掲示と大重千織栄養教諭

## 基本はやっぱり、早寝！



4580 食

＜小学校＞ 志和・小谷・高屋東・高屋西・造賀・平岩・高美が丘・福富・豊栄・河内・入野  
＜中学校＞ 志和・福富・豊栄・河内・高屋・高美が丘・磯松。他1保育所、3認定こども園

### 給食センター

・提供食総数  
・受配校（園）



## 給食センターと学校を兼務（安芸津中・源氏田可織栄養教諭）

|       |                                                                                                                                                                                               |       |                                     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------------------------------|
| 7:30  | 健康観察、身支度、前日の調理記録等の確認、当日の調理確認、アレルギー確認                                                                                                                                                          | 12:00 | 中学校へ移動、日程及び伝達事項確認                   |
| 7:45  | 食材の検収（野菜）、地場産物速報作成                                                                                                                                                                            | 12:25 | 授業がある場合は該当校の給食指導                    |
| 8:00  | 食材の検収（肉、豆腐）、在庫確認                                                                                                                                                                              | 12:25 | 給食準備、給食放送指導、給食指導（配膳・マナー・献立・食材の説明など） |
| 8:30  | 給食指導教材作成                                                                                                                                                                                      | 13:10 | 後片付け                                |
| 8:50  | 地場産物速報を学校へ送信、伝票整理、納品数量データ入力、残食量確認、係数表作成、翌週の作業工程・作業動線確認                                                                                                                                        | 13:20 | 校内書類作成、食育だより、掲示物作成、食育資料作成、教職員との連携   |
| 10:00 | 調理状況及び衛生管理状況確認、味見、アレルギー対応の確認、調理写真撮影または給食事務（献立作成、統一献立検討、使用物資データ入力、調理手配表作成、発注書作成、検収簿作成、物資使用数量確認、主食需要申請書作成、家庭配付用献立表、給食だより作成、配膳図作成、検食簿作成、アレルギー対応書類作成、成分表確認、放送資料作成など）、給食時間における指導教材作成（授業がある場合は該当校へ） | 15:00 | 清掃、保健給食委員会活動参加                      |
| 11:00 | 検食量計算、給食指導教材作成、授業がある場合は食育授業                                                                                                                                                                   | 15:30 | 職員会議、校内研修、教職員との連携                   |
| 11:30 | 食材の検収（一般物資）、Instagram投稿、クラスルーム投稿                                                                                                                                                              | 16:30 | 食育指導案作成、教材準備、担当校との連絡調整、時間があれば給食事務   |
|       |                                                                                                                                                                                               | 16:30 | 業務終了                                |

栄養教諭には、成長期の子どもたちに栄養バランスのとれた食事を提供することで、子どもたちの健やかな体と心を育てていきたいという思いがあります。料理の由来や食材や給食が届くまでの背景、栄養価など、教育的な意義も込められているので1食1食を大切に食べてほしいです。

毎日決まったルーティンの事務作業はほとんどなく、月単位で動くことが多いです。悩みは、私の場合は一人職であることによる業務量の多さによって一人で考えこんでしまうこと、安芸津中学校と給食センターを兼務し、その他に小学校4校を担当していることによる時間の制約、対象児童生徒が多く、地域や学校、学年によっても様々な実態があるため、それに応じた食育の指導を行う必要があることなどです。また、市内統一献立のため、地域や学校の特色を生かした献立も難しくなっています。

今後、より多くの栄養教諭が配置され、食育が充実されることを願っています。食や健康に関する相談にも積極的にに関わり、子どもたちの食の自立を支えていきたいと思っています。



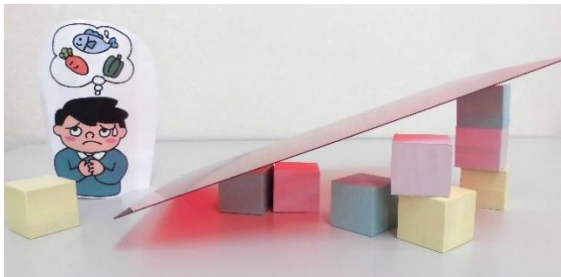
## 出張食育授業 「元気の出る朝ごはんを考えよう」 (郷田小・片山亜紀栄養教諭)

栄養教諭は、勤務する給食センターの受配校の食育推進計画にそって、出張食育授業を行っています。東広島給食センターの片山栄養教諭は、5月30日に乃美尾小学校で朝ごはんについての授業を行いました。

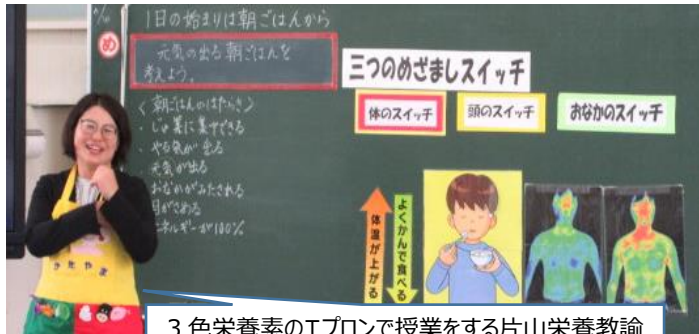
「朝ごはんでは、3つのスイッチが入ります。①脳のスイッチ、②体のスイッチ、③おなかのスイッチです。おみそ汁だけでも、3色の栄養素がとれるんですよ。食育の授業を通じて、今朝の朝ご飯を思い出し、よりよい朝ごはんの取り方を考えるようにしましょう。」と子どもたちに語りかけていました。



3色栄養素を考える積み木教材  
朝昼夕の3食それぞれ、赤黄緑のグループの食材がそろったバランスの良い食事(上)



担任の先生も一緒に授業。子どもたちはタブレットも活用。



3色栄養素のエプロンで授業をする片山栄養教諭

### Q1 朝ごはんは、どんなものでも食べればよいのですか？

A1：まずはなんでもいいので、食べることが大切です。食べる習慣がついている人は、食事の内容を見直してみましょ。主食（黄のなかま）・主菜（赤のなかま）・副菜（緑のなかま）をそろえて食べることが、午前中の活動や集中力を持続させるために大切です。朝は、準備する時間も食べる時間も確保するのが難しい時もあります。みそ汁やスープなどは、入れる材料次第で赤も黄も緑もそろう料理なので、前日の晩ごはんの時に多めに用意しておき、朝食にするのもいいですね。

### Q2 栄養教諭だけで、献立作りや食材確保をしているのですか？

A2：東広島市内には、栄養教諭以外に学校給食に携わっている栄養士が11人います。その人たちと一緒に、健康によい食事や郷土料理、行事食や地場産物を使った料理などを組み合わせて、献立を考えています。また、年に4回開かれる給食物資選定審査会や入札で10人の審査員や事務局の人たちが、献立をもとに、値段や味など給食に見合ったものかどうかを検討し、給食に使う物資を決定しています。栄養教諭以外のたくさんの人たちが関わっています。

## 片山先生と給食 Q&A



### Q3 子どもたちにどのような食育の力がついて欲しいですか？

A3：「おなかを満たす」だけではなく、「自分で食を選び、考え、楽しむ力」を身につけてほしいです。そのために、次の4つの力が必要です。

- ・食べ物大切さを知る力（命をいただいていること、食材がどこからきているかを知ることなど）
- ・自分の心と体を大切にすること（バランスのよい食事を選び、健康を守る意識をもつことなど）
- ・人と食を通じてつながる力（家族や友達と一緒に食べる楽しさ、感謝の気持ちをもつこと、昔から伝わる郷土料理や行事食を伝えること、食事のマナーなど）
- ・未来を考える力（食品ロスや環境問題に目を向け、持続可能な社会を考えることなど）

### Q4 給食の残菜の量が多いとどうなりますか？

A4：給食は学年に応じて栄養量を考えて作っています。個人差はあるとは思いますが、成長期に必要な量なので、残してしまうと十分な栄養量をとることができず、成長や健康な体づくりに影響をあたえかねません。また、材料を集めた人や朝早くから調理した人たちは、たくさん給食が残って返ってくると悲しい思いをします。郷田小学校では、食べる時間を確保する工夫をしています。準備時間を短くするために、学校全体で配膳の仕方を統一しています。どのクラス、どの担任の先生になっても、同じ配膳の仕方が身につけていけば、子どもたちだけで戸惑うことなくスムーズに準備ができると考えたからです。また、食缶の中身をつぎきったあとに、個人差に合わせて減らしたり、増やしたりして、自分に必要な量を考えて食べることができるようになりました。

# 早起き！朝ごはん！

## 給食時間中、私が見逃さない3つの事

先生方向けの給食だより（板城小・佐久間有佳栄養教諭）

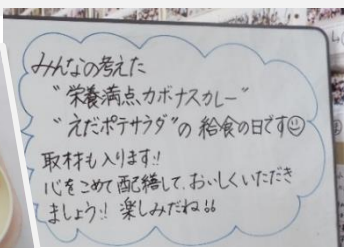
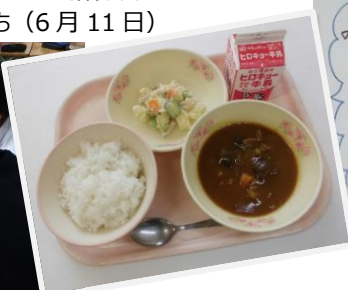
栄養教諭は、給食センターと子どもをつなぐ役があると思っています。給食時間の指導は、まさに給食センターと子どもをつなぐ時間であり、栄養教諭の大事な仕事のひとつと考えています。学年の始めにお邪魔したクラスでは、担任の先生が「こんな時は本気で叱ります」と子どもたちにお話をされています。それを見習って私が見逃さないように気を付けている3つのことを、先生方向けの給食だよりで伝えています。

- ① 事故等につながる食べ方をしているとき
- ② 食べ物を粗末に扱っているとき
- ③ 心ない言葉や態度を見聞きしたとき

とくに①です。給食のパンやうずら卵が窒息事故につながったニュースもありました。たくさん口に押し詰めたり、箸をくわえたまま椅子をカタカタさせていたりするのはとても危険です。息ができなくなったり、箸がのどに刺さったりする大きな事故につながるからです。

また、「食べること」は信頼関係の上に成り立つので、担任の先生の給食時間での指導がとても大切です。今年度、板城小学校では、初任の先生がベテランの先生のクラスで給食を食べ、担任が行う給食指導を参観する時間を設定しました。給食時間や食育授業を通して、子どもたちが食を自分のこととして身近にとらえ、毎日の生活に生かせるようになってほしいと願っています。

今年度、市内の学校栄養職員と栄養教諭で、食物アレルギー対応についての教材を作成する予定です。子どもは「(食べないのは)ずるい。」と言ったり、苦手な食材を「アレルギーなので食べられない」と言ったりすることがあります。食物アレルギーは命に関わるので、給食で対応が必要だということを、本人だけでなくクラス全体で考えることができるようになればと思っています。



リクエスト給食、いただきます！（8月29日）

### つなぐ

栄養教諭 佐久間有佳

給食センターから、板城小学校4月の残食量の一覧表が届いたので、回覧します。  
新年度始まって慌ただしい中、給食時間になると、エプロンをつけ、配膳指導を行ったり給食放送が始まると静かにするよう声をかけたり、きまりを守って丁寧に片づけの指導をしたりと、毎日の給食指導をありがとうございます。

#### 🔥 クラスの子どもたちはいかがですか…

さて、新年度が始まって一か月と少し…先生方は、どのくらい食べることができるか…苦手な食べ物の傾向はどうか…食べる様子はどうか…など、子どもたち、一人一人の給食の様子について把握ができる頃かと思います。  
4月初めは緊張感があり、少し頑張りすぎている子どもたちも、環境に慣れてくると最初の印象と少し違う子どもたちの姿に出会うようになるかもしれません。  
給食では、牛乳も全部飲んでいただくに、野菜もしっかり食べていただくに、「飲めない〜」「食べれない〜」とか、給食を減らす列が長くなった？など…本当に無理なのか、甘えているのか（もしくは「残していいよ…」と言われることを期待しているのか…👀）5月は運動会の練習で忙しい中でも、昨年度の先生方につけていただいた子どもたちの食の力を引き継いでいけるような…と思っています。  
給食時間の困ったこと、どうしようかな…と思われていることがあれば、いつでも声をかけください。

#### 🔥 私が気をつけている3つのこと

学校開き、学年開きの時に、少しお邪魔させていただいたクラスでは、先生方から「こんな時は本気で怒ります。」と3つのことについて話をされていました。  
先生方の話を見習って…私が給食で見逃さないように心がけていることは次の3つです。



「球道即人生」－コートの中での姿勢が、そのまま社会に出てからの姿勢になる－ 加藤 彩花（かとう 彩か）教諭（中央中学校）

- ① 教員になろうと思った理由…大学のバレー部で、小中学生対象のバレーボールキャンプを企画した。その時の子どもたちに、言葉でバレーボールを教える楽しさを知り、バレーボールを教えたいという思いも強くなり、本気で教師を目指すようになった。
- ② 中学生の頃の思い出…中学校の修学旅行は、1つ上の学年も1つ下の学年も大阪に行き USJ に行った（なぜか？笑）。自分たちは鹿児島で民泊したり、知覧特攻平和会館などに行ったりして、特攻隊員や各地の戦場で戦死された多くの特攻隊員のご遺徳を回顧しながら、命の尊さについて学ぶ等貴重な経験をしたこと。
- ③ マイブーム…旅行に行ったり、フォレストアドベンチャーなどで体を動かしたりする活動が大好き。

わが校の職員室は、「職員室文化」といえるものかもしれませんが、本当に元気で、明るい雰囲気ができあがっています。生徒指導や部活動指導などで、悩んでいる時も、直ぐに多くの先生方からアドバイスをもらえます。「何か手伝えることはないか」という姿勢で支えてもらえます。また、近年、休日などに教職員が集まって運動できる機会は減ってきていますが、東広島市では、教職員スポーツ交流大会があり、本当に素晴らしいと思います。おかげで、教職員同士の絆（つながり）も強いのではないかと感じています。

わが校の女子バレーボール部は、幸いなことに、県選手権呉・賀茂予選大会で優勝し、県大会に駒を進めることができました。これからは、自分の思いを伝えながら、部員との信頼関係を築き、さらなる高みを目指していきたいです。



最後に、授業力をつけることが自分の課題だと思っています。生徒の実態に鑑み、限られた授業時間の中で、何を削りながら何にこだわり授業を作るのか、ゴールに向かう本質的な問いや振り返りの在り方を多くの先生方や研修から学び、自分の引き出しを増やしていきたいと考えています。

「絶対無二の一球」－人生に同じ場面は二度とない、一日を大切に－ 岩本 理子（いわもと りこ）教諭（志和小学校）



この春、福山市立有磨小学校から東広島市に異動して感じたことは、5年目の私たちへのサポートが手厚いことです。5年目等教職員研修、ICT支援、そして何より校内の先生方の温かいサポートで異動の不安もなくなり、楽しく充実した日々（秋には研究公開を控え奮闘中）を送っています。学年部の先生にも恵まれ「いつも6年部は、笑い声がきこえて楽しそう。」と言われます。

私は、小学校からずっとバレーボールを続けており、大学は、体育学部体育学科で中高の体育教師になろうと思っていました。それが授業の一環で「小学生と20kmを歩く」という行事に参加したことで、進路が変わりました。1日かけて20kmという長い距離

と一緒に歩く中、途中歩けなくなる1年生に声をかけたり、高学年の児童と励まし合ったりして全員でゴールすることが出来ました。一緒に活動する中で、子どもたちが成長していく姿、目標を達成した時の笑顔に感動して、私の進路は小学校の教員に決まりました。

これからも子どもたちが楽しく充実した学校生活を送ることが出来るよう、授業力を一層向上させるとともに子どもたちの話に耳を傾け、寄り添い指導していく教師を目指していきます。

- ① 座右の銘－スポーツ少年団の監督（現在広島市立小学校の校長先生）から卒団のとき頂いた言葉  
「『この一球は絶対無二の一球なり』同じ場面で同じボールは二度とない、その時の一球を大切にしろ。」
- ② 気分転換  
現在、母がスポーツ少年団（バレーボール）の監督をしているので、時々指導の手伝いをする
- ③ 趣味 サンフレッチェの応援、推しは Travis Japan
- ④ 小学校・中学校の思い出  
小学校では、スポ少の練習は週1日以外すべて練習。中学校では、部活動（バレーボール）が終わったら、小学校の体育館へ直行しバレーボール練習。バレーボール尽くしの生活でした。

進んで学ぶ、仲間と学ぶ  
自主研究サークル紹介

社会科サークル

第5回

その2  
EXP02025へ16名で  
1泊2日の臨地学習実施

社会科サークルは毎年、夏休みを利用して現地で社会を学ぶ「臨地学習」を実施しています。県内はもとより、中国地方各県も回っており、何度も泊りがけで行ったのですが、今年も話題の大阪・関西万博に7月27日、28日の2日間で実施しました（28日は全員年休取得）。

輸送はマイクロバスをレンタル（免許をもつメンバーが運転）して費用を圧縮。猛暑の中、1日目14時から21時、2日目は9時から13時の合計11時間大屋根リングやパビリオンを見学。さすがに社会科好きのメンバーは、希望するパビリオンも多種多様。終わったときのアンケートで好感度が高かったのは、第1位がイタリア館、第2位が中国館、3位がウズベキスタン館だったとのことです。

社会科サークル 代表 高橋知基（郷田小）  
毎月金曜日 18:00～ くら会議室



第20回



リレーコラム「私の出会った子どもたち、先生たち」

今回は、長年東広島市の小中学校を事務の立場でささえてこられた大江さと子先生です。

事務新時代（学校事務職員の育成を通し教育に力を！）



大江さと子 先生

S52.4  
倉橋町立倉橋小学校 主事

S54.4  
倉橋町立宇和木小学校 主事

S58.4  
河内町立戸野小学校 主任主事

H2.4  
東広島市立高屋東小学校 事務主任

H8.4  
東広島市立造賀小学校 事務主任

H13.4  
東広島市立磯松中学校 事務専門員

H19.4  
東広島市立高美が丘小学校 事務長

H21.4  
東広島市立松賀中学校 事務長

H23.4  
東広島市立高美が丘小学校 総括事務長

H30.3.31 退職  
現在、松賀中学校  
スクールサポートスタッフ

「過去が咲いている今、未来の蕾で一杯な今」－これは、陶芸家・河井寛次郎氏の言葉です。私は、児童数150名程の倉橋町立倉橋小学校の学校事務職員として初めて採用されました。東広島市立高美が丘小学校の総括事務長として退職するまで、広島県、特に東広島市での学校事務の共同実施を通して、教育の支援（財務管理の部門）で専門性を発揮できる学校事務職員の人材育成に取り組んできました。その思いのバトンを次の世代に繋げていき更に発展させてもらいたいという、私の願いも詰まった大好きな言葉です。

学校で唯一の行政職員としてスタートした時の私にとって学校事務職員としての仕事は、児童・生徒のお金に関わる仕事や電話対応ぐらいしか知識がありませんでした。これを読まれている皆様に、この機会に学校事務職員とはどんな仕事をしているのか、学校事務の共同実施とはどのようなものなのかを知っていただくとともに、私が学校という組織の中で、どのように仕事に取り組んできたのかを述べていきたいと思います。

〔学校事務職員の仕事〕

学校の組織運営の一役を担う学校事務職員としての仕事は複雑、多岐に渡っています。児童・生徒が学校生活を安全にかつ快適に送れるよう、また、先生たちが授業に集中して仕事ができるように手助けをする仕事をしています。具体的に児童・生徒に関わる仕事としては、転出入事務・教科書事務・就学援助事務・学校教材等の集金事務・各種補助金事務・授業等で使う教材の購入、机や椅子などの管理備品の購入などです。先生たちの勤務や生活に関する事務もたくさんあります。忙しい中でも、行事や清掃活動を通して児童・生徒とふれあう機会も多く、成長に喜びを感じとれる幸せな仕事です。

〔学校事務の共同実施〕

今、東広島市では、総括事務長、事務長が配置された9か所の拠点校に複数の学校の事務職員が週に一度集まり、共同実施（学校事務センター）として業務を行っています。これは、平成10年9月中央教育審議会答申で、学校の主体性と教育力の向上を図る新たな学校事務の在り方として、「学校事務・業務の共同実施」が提言された事を受けて実施されているものです。

〔事務長として取り組んだ事〕

個人的に一番の思い出としては、高美が丘小学校に、中央公民館の解体に伴う移管備品であったグランドピアノを設置することができた事です。

学校に配当される予算では、高額で購入することが出来ない備品です。まず澤田校長先生に「今こんな情報があるのですが、希望してもいいですか」と相談したうえで、大垣教頭先生、音楽専科の津森先生とも相談して現地に行き、グランドピアノの状態を確認しました。ピアノは大型でしかも繊細ですから、移動させるためには運搬費用が必要で、学校内に設置するときには調律経費もかかります。その費用について教育委員会に相談させてもらったり、PTA会長にお願いしたりしながら体育館に無事設置されました。卒業式でそのグランドピアノの伴奏で児童が歌った校歌は胸に響きました。

私が事務長になった平成19年4月、東広島市での学校事務の共同実施が高屋と安芸津の2か所で本格実施されました。この時、もう一人の影山事務長と2人で、管理面・運営面で機能する学校事務共同実施の大枠の形を協力しながら作っていきました。二人で西部教育事務所へ向かうときには、列車内で相談に熱が入り、目的の海田市駅を乗り過ごしたこともありました。

また、西部教育事務所事務長会、広島県事務長会の立ち上げでは役員として、県内の多くの事務長と知り合うことができ、さまざまな地域の共同実施の取組みを学び、刺激を受けました。これが東広島市の学校事務共同実施を「仕組みづくりから中身づくり」へと進めることにつながりました。

こうした状況のなか、東広島市立小中学校事務長会設立にも関わることになりました。私が勤務していた拠点校の太田校長先生からも強く後押しをしていただき、國崎学事課長の指導、助言を参考にしながら、東広島市立小中学校事務長会が平成23年11月4日に発足しました。準備期間が短く、9名の総括事務長・事務長が一体になり活動方針や規約等を作成しました。設立総会の時は、木村教育長をはじめ多数のご来賓においでいただき大変嬉しい一日となりました。

冒頭にも書きましたが、私は、学校事務職員の意欲・向上心と専門性を高めて「学校経営参画できる学校事務職員を育て、教育に力を！」という思いでがんばってきました。特に研修には力をいれました。研修を進める為に、林校長先生には、多方面に指導していただきました。

特に心に残っているのは、人を育てるためには、ほめる種をまくことが大切という事です。人からほめられるととても嬉しいです。でも、いいことがあったらほめようというのではなく、ほめることが出てくるように上司として部下に必要で適切な指示をすること、つまりほめる種をまいていくことを教えていただきました。家庭でも、日ごろから子どもの様子をよく見て、具体的に伝えるというほめる種をまいておくことが大切なのだと思います。

〔組織の一員として学び取り組んできたこと〕

私は、仕事をする上で組織的なプレーを大切にしました。そのために、教育行政職員として、児童・生徒の豊かな教育支援ができるように、財務管理を中心に校長先生をはじめ教職員の方々、教育委員会等との連携をしっかりとるようにしました。また、関連校の校長先生との連携を丁寧に行い、所属する事務職員を育てる視点を共有することを心がけました。その甲斐もあって、事務センターで働いた学校事務職員のメンバーは、色々な事に向上心を持って仕事に取り組み、成長する姿を見せてくれました。平成27年度には、高屋事務センターの取組をまとめた研究で、東広島市教育研究奨励賞を受賞しています。

仕事に対する熱意とあくなき探究心を大切に、ポジティブな気持ちを忘れずに仕事に取り組んできた日々でした。振り返ってみて、さまざまな場面で色々な人々に助けていただき、それまで気付かなかった自分に何度も出会ったことができたことを思うと、素敵な出会いに感謝の気持ちで一杯です。